



坂井市で「若者たちの チャレンジ」講演会

越前市の「ボルガライズ」と「駅前中華そば」の代表がお笑いトーク

四月一日夜、坂井あわら市民自治研究センター主催による「若者たちのチャレンジ」講演会が、坂井市交流センター「いねす」で坂井市、あわら市の市民、市議会議員、自治体職員など四〇名が参加して開かれました。

講演会では越前市で今や全国的な注目を集めている「ボルガライズ」と「駅前中華そば」の活動団体代表のボルガラー協会の波多野翼さんと、温盛一杯中華MENSの上城戸佑基さんの二人が、活動



の発端から今日までの経過を楽しく面白い漫才のように語り、会場は何度も笑いに包まれました。

二人は、参加者の質問に答えながら、自分たちがやりたいことを勝手に楽しくサークル活動のようにやっていたら、いつの間にか凄

い反響で拡がった、行政の補助金がなければ街づくりが出来ないなどという人も多いが自前だから好きなことができる。越前市の職員だが仕事でやっているわけでもない、でも活動することで市民との触れ合いが幅広くなり市役所と市民の垣根が低くなったり、意外なネットワークで公務の仕事がやりやすくなっている点はある。これ

からも自由に楽しくやりたいことを自前でやっていきたいと話しました。

「プロから学ぶ家庭料理」のコーナーも好評

講演会では、この後、喫茶店コーナーで、あわら市議でもある吉田太一さんから「パラパラチャーハン作り方」の料理一言アドバイスのコーナーもあり、家庭でも専門店のようなパラパラチャーハンを上手につくるコツが分かりやすく伝授されました。

越前市で地域づくりを 学ぶ講演会

四万十市の宮本昌博さんを招いての講演会 150人が参加

「地域づくり」は地域社会での「人と人との共同発達関係づくり」

四月二五日、NPO法人丹南市民自治研究センターは、高知県四万十市の職員で全国地域づくり交流センター代表世話人の宮本昌博さんを講師に招き、越前市公民館連合会、公民館職員組合、福井県地方自治研究センター



と共催して「地域づくりとはどのようなことか」と題する市民講演会を開き、市内の公民館長、地域づくりリーダー、公民館職員、自治体職員の皆さん150名が参加しました。

講師の宮本さんは、四万十市の各地や集落で取り組まれている具

体的な事例を幾つも紹介しながら、地域づくりは住民自身が主役として行うものであり、一人一人の心をつなぎとめるのが第一の目標。

行政の行う調査活動は紙のアンケートが主になっているが、自分たちの調査活動は住民の所に出かけて九〇分間じっくりと話を聞き、人生の生き方、思いなどを聞きながら把握し、本音の声や要望を聞いている。寝たきりの人も何も周りに影響を与えないというのではなく、家族の介護力、推察力を身につけさせ地域全体での連帯する力を養っている。

住みよい地域とは個人が周りに迷惑をかけることを当たり前のようには言えない。現代は世の中全体が人と人との関係を壊す方向で動いているために、家族も地域も職場も、そのままでは壊れてしまう、「つくらなければ壊される時代だ」

私たちがつくりようとしているのは「地域社会づくり」。人と人との関係が「はげまされたり」「はげましたり」になっている。地域づくりとは地域社会における人と人との共同発達関係づくり、などと話されました。

この講演会は福井県地方自治研究センターも共催しました。

丹南自治研センターが
宮城県塩竈市の特産品販売

大震災や防災、東北支援を忘れないで呼びかけ

四月二八日、越前市の今立芸術館一帯で開かれた「アースデーえちぜん2013」に参加したNPO法人丹南市民自治研究センターは、東北大震災復興支援の気持ちを込めて宮城県塩竈市の特産品販売を行いました。

販売されたのは、「塩竈の藻塩」をはじめ、「藻塩クリスピーチョコ」「天かま」「銘菓志ほがま」など、福井では日頃みたくはない品ばかりで午後には参加者の協力もあり殆どの品が売り切れました。

また、被災時の写真や現在の写真も展示され、大震災と防災、東北の事を忘れないでと呼びかけました。

塩竈市の特産販売にあたっては、越前市の職員が被災地支援として派遣されている自治体であり、丹南自治研センターの小嶋事務局長も三月まで赴任していたことから今回の取り組みとなり、特産品に

ついては塩竈市の関係者の方から、送料や価格のサービス、プレゼントなどもありました。



自治労福井県本部
福祉自治研集会ひろく

介護保険、保育、自治研活動
など八十五名が学ぶ

六月二十二日、鯖江市の響陽会館で自治労福井県本部社会福祉評

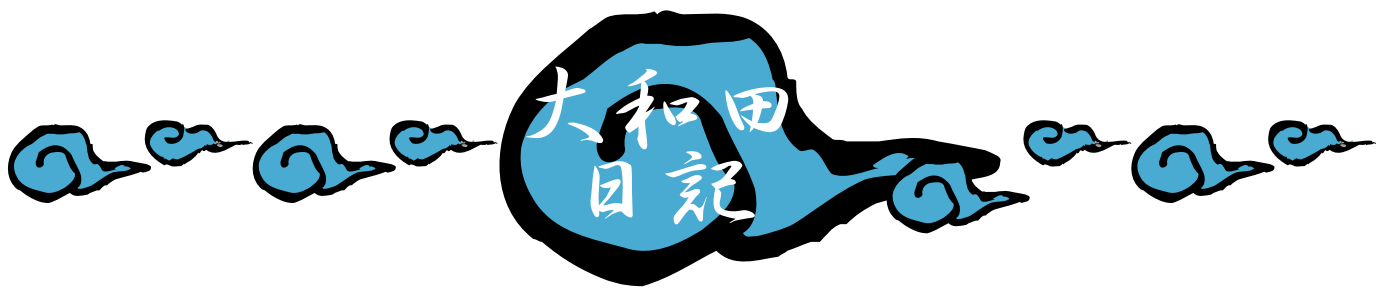
議会が主催する「第二回福祉自治研集会」が開かれ、市民、自治体職員など八十五名が参加しました。集会は第一部として産経新聞社編集局文化福祉部社会保障班の「佐藤好美」さんが「介護保険、未来に向けてー各地の取り組みから」と題した講演を行い、全国の高齢者施設や自治体の先進的な取り組みを紹介しながら、今後の政策や自治体、市民としての関わり方について課題を提起し、参加者にも自分自身の問題として考えるようにと呼びかけました。

第二部は二つの分科会に分かれ、第一分科会では「めざすべき公的保育保障とは」のテーマでパネルディスカッションが行われ、パネルラーは自治労県本部の社会福祉評議会議長で保育士の「山内章裕」さん、県本部社会福祉評議会オプザーバーで福井市役所の「大嶋智」さん、助言者には自治労中央本部社会福祉評議会保育部会長の「東向旬子」さん、コーディネーターは県本部社会福祉評議会事務局長の「野田博幸」さんが務めました。

パネルディスカッションでは、県内の保育園で起きている保育の現状や保育士の悩みや苦勞、行政としての問題点、今後の運動の方向などについて議論が行われました。

第二分科会では、福井県地方自治研センター副理事長の「伊藤藤夫」さんが、自治体職員としての住民と職員の関係、仕事の改善と市民協働、県内の自治体における福祉政策と担当者の活躍などについて具体的な事例を紹介しながら講演しました。参加者からは、新たな自覚と決意で住民に喜ばれる福祉政策を作りたいとの声が多く出されました。





◎活動の記録（2013年2月～）

- 13年2月15日 第21回福井県地方自治研究センター総会（自治労県本部会館）
- 13年2月28日 地方財政セミナー（東京砂防会館）
- 13年4月22日 第1回県自治研センター幹事会（ホテルフジタ）
- 13年4月10日 坂井あわら市民自治研究センター・講演会（共催）
- 13年4月17日 自治労北信地連自治研推進委員会（金沢市・自治労石川県本部）
- 13年4月25日 丹南市民自治研センター・市民セミナー（越前市・福祉健康センター）（共催）
- 13年5月16日 自治研ふくい企画 福井県連合青年団取材（福井市）
- 13年5月23日 自治研ふくい第一回編集委員会（自治労県本部会館）
- 13年6月11日 東北大震災・派遣職員座談会（自治労県本部会館）
- 13年6月15日 福井競輪労組・職場探訪取材（福井競輪事務所）
- 13年6月22日 福井県福祉自治研集会（鯖江市・嚮陽会館）
- 13年7月12日 丹南市民自治研究センター・憲法を考える学習会（越前センターエリープラザ）

◎編集後記

編集委員に任命され、一隊長に取材の段取りを一任されました。協力いただきました皆様、ありがとうございました。最終的な校正までも隊長の指導を仰ぎっぱなしでしたが、紙面が形になるにつれ、楽しくなってきました。次号の発行にあたっては、自分の感じた楽しさを何らかの形で伝えられるような紙面作りを企画していきたいと思えます。

被災地自治体に派遣された職員による座談会を行って見て、皆さん自分の体験として被災地を語る事が強く印象に残りました。紙面として、ライブ感をどの程度伝えられているのか不安は残りますが、座談会で語られた思いの半分でも伝えることが出来たら良いと思えます。

編集担当（野田）

◎投稿募集！

「自治研ふくい」では、皆様からの投稿を募集しております。

自治体の動きや町の活動、職場での話題など、事務局までお気軽にお寄せください。

福井県地方自治研究センター会員募集

自治研センターの会員を募集しています。ぜひ積極的な加入をお願いします。

個人会員 1年間 2,000円 団体会員 1口 5,000円

●活動内容と会員サービス

- 1.当自治研センターが主催する各種講演会、学習会について会員の皆さんにご案内を差し上げます。
- 2.会員が集会や講演会をされる場合、講師のご紹介や会場の斡旋を行います。
- 3.住民本位の地域政策を策定していくため、課題別の研究会を設け、活動を進めます。
- 4.当センターの活動経過や各種情報、研究成果等を掲載する「自治研ふくい」を発刊し、会員にはご自宅へ無料で送付します。

【申込先】 〒910-0802 福井市大和田町38-30-3
自治労福井県本部内 TEL(0776)57-5800 FAX(0776)57-0690
E-mail:f-jichiken@ubcnet.or.jp